

# 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1997年度



1998年3月

富山県小杉町教育委員会

## 例　　言

- 本書は、平成9年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。また、平成4年に実施した丸山古墳の調査概要も掲載した。
- 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長 古城久則が担当し、生涯学習課長 河畠 浩が総括した。
- 本書に収録の調査は、小杉町教育委員会の原田義範・福垣尚美が行なった。
- 調査の実施に当たり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力をいただいた。記して謝意を表したい。(敬称略五十音順)射水建設興業㈱・㈱シーエフ・城西運輸機工㈱・㈱大成・㈱立山興産・富山県高岡土木事務所・富山県高岡農地林務事務所・町都市計画課・山穂不動産開発㈱・ヤマサン食品㈱・蓮王寺
- 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行ない、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会で保管している。
- 本書の編集・執筆は、原田・福垣が行なった。

## 目　　次

1. 平成9年度の概要	1	小杉伊勢領遺跡〔No.5〕	9
2. 分布調査	2	4. 本調査	9
3. 試掘調査	3	高寺遺跡〔No.1〕	10
水上・本開発遺跡〔No.1〕	4	HS-04遺跡〔No.2〕	11
干田遺跡〔No.2〕	4	愛宕遺跡〔No.3〕	11
日の宮遺跡〔No.7〕	5	5. 普及・活用	12
二の井I遺跡〔No.6〕	5	6. 丸山古墳発掘調査概要	13
二の井II遺跡〔No.13〕	5	1 立地と周辺の遺跡	13
塙越大沢II・黒河尺目遺跡〔No.12〕	6	2 調査の経緯と事前調査	14
黒河尺目遺跡〔No.3〕	6	3 調査の概要	14
黒河尺目遺跡〔No.4〕	7	4 遺構	15
白石遺跡〔No.10〕	7	5 出土遺物	18
黒河竹山遺跡〔No.11〕	7	6まとめ	18
一つ山古墳群〔No.14〕	7	※遺跡名右側のNoは〔 〕が試掘、〔 〕が本調査の一覧表の番号を示す。	
HS-04遺跡〔No.9〕	8		
HS-04遺跡〔No.8〕	8	※表紙写真は、高寺遺跡の調査区	
HS-04遺跡〔No.15〕	8		

## 凡　　例

- 本文中の発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は遺物の出土位置を示し、種類は次のとおりである。

Tトレンチ ●縄文土器 ▲石器・石製品 □弥生土器 ▽土師器 △須恵器 ■珠洲 国中世土師器  
○陶磁器 ◇铁滓 ◆近世陶磁器 ◎木製品 □近代陶器

## 1. 平成9年度の概要

平成9年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、現地確認・分布調査44件、試掘調査15件、本調査3件であった。確認調査・分布調査・試掘調査のいずれも昨年度の件数を上回った。

分布調査は、大規模開発に伴う調査がなかったため、対象面積が約8,000m<sup>2</sup>減ったものの、件数では1.4倍に増加した。これは遺跡の取り扱いに対する認識の高まりによるものと考えられる。

試掘調査は、大規模な宅地造成計画が2件あったために、昨年の約5.5倍の対象面積で調査を行なった。調査日数は延べ58日を費やしており、これは約3ヶ月の稼働日数に当たる。本町は、古沢・黒河バイパスや中老田・高岡線の部分開通により、沿線には店舗の出店や宅地造成があいつぎ、個人住宅建設の件数も伸びている。このような状況から、今後もこれら開発に伴う調査の増加が予想される。

調査・整理体制は、町の調査員2名ですべてを行なっている。4~12月の間に、3箇所で大規模な本調査と大型宅地造成に伴う試掘調査が2件あった。これらの大型事業と調整を図りながら確認・分布・試掘調査に対応した。このように現地調査優先の状況が続くなか、未報告分の報告書作成に取り組んでいる。

今後急増が予想される開発に対し、調査・整理体制の充実を図るとともに、開発事業と遺跡の保護対応など、調整能力の向上が急務となっている。



第1図 調査位置図（数字は調査一覧表の番号を示す。）

## 2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地域及び未踏査地域で行なわれる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議を行ない事前に現地を踏査し、遺物の散布状況等を確認する分布調査を行なっている。本年度は44件すべてが民間事業に伴うもので、昨年の約1.5倍の件数である。

周知の埋蔵文化財包蔵地は小杉町全国（1万分の1）に記載され、小杉町教育委員会の窓口に備えつけられており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No.	所 在 地	原 因	調査日	対象面積	対象地の種別	現 状	活 用 物	調査への対応
1	天高木109-2	資材貯蔵場	H9.4.14	1,318m <sup>2</sup>	未踏査地	標高0.8mの水田地	支障なし	
2	高岡市田山7258-3 重	農人住宅建設	H9.4.14	489m <sup>2</sup>	黒河道地内	標高3.0mの既存宅地	転用済み	
3	高岡市天代町136-1	個人住宅建設	H9.4.14	489m <sup>2</sup>	黒河川伏道跡隣接	標高17mの畠地	支障なし	
4	高岡市田山148-4 重	バシソコ塗装設	H9.4.14	7,005m <sup>2</sup>	未踏査地	標高5.7mの水田	支障なし	
5	二ヶ4266-2N 3 重	古墳設置	H9.4.14	1,939m <sup>2</sup>	未踏査地	標高5mの水田	支障なし	
6	高岡市加賀730-15	監視施設	H9.5.30	244m <sup>2</sup>	未踏査地	標高5mの荒れ地	支障なし	
7	高岡市新野町132-1	個人住宅建設	H9.5.16	205m <sup>2</sup>	西野瀬跡隣接	標高15.3mの畠地	支障なし	
8	高岡市新野町131-1	個人住宅建設	H9.5.16	191m <sup>2</sup>	西野瀬跡隣接	標高15.3mの畠地	支障なし	
9	平野159番 1 重	資材貯蔵場	H9.5.16	2,479m <sup>2</sup>	天地呂跡隣接	標高5.8mの水田	支障なし	
10	三ヶ196番 2 重	資材貯蔵場	H9.6.16	973m <sup>2</sup>	中路谷地	標高5.2mの水田	転用済み	
11	高岡市高山727-11	無縫帯地盤	H9.6.25	154.7m <sup>2</sup>	高山瀬跡隣接	標高10mの山林	支障なし	
12	三ヶ1286-1N 1 重	宅地敷地の拡張及び駐車場設	H9.7.30	327m <sup>2</sup>	未踏査地	標高4.5mの畠地	転用済み	
13	中越字御堂696-1	駐車場後尾用駐車場設	H9.7.30	39m <sup>2</sup>	小沢地跡隣接	標高5mの荒れ地	支障なし	
14	中越字山見99-4	宅地造成	H9.7.30	6,700m <sup>2</sup>	一郷原山-豆原山の傾斜地	標高10~15mの傾斜地、荒れ地	範囲による確認 適宜な調査	
15	高河3827-1	宅用地造成	H9.7.30	33m <sup>2</sup>	黒河川伏道隣接	標高5.0mの畠地	転用済み	
16	高岡市田山72 1 重	宅用地造成	H9.8.5	120m <sup>2</sup>	黒河道地内	標高5.0mの既存宅地	転用済み	
17	中越字加賀555-1	駐車場設置	H9.8.19	7,902m <sup>2</sup>	寺坂大沢丘3道跡隣接	標高16mの畠地	支障なし	
18	戸崎3441	宅地造成	H9.9.3	872m <sup>2</sup>	未踏査地	標高6mの軟弱地	板状上層、堅密層、中・近世層、遺構 土糞層、調査層（出土から表層）	土糞層による調査 適宜な調査
19	平高101-1	事務所建設	H9.9.16	267m <sup>2</sup>	未踏査地	標高6mの荒地	支障なし	
20	舟石311-1	事務所建設	H9.9.16	417m <sup>2</sup>	未踏査地	標高2mの荒地	転用済み	
21	二ヶ192番 1 重	古墳設置	H9.9.17	1,896.61m <sup>2</sup>	未踏査地	標高1.8mの水田	板生土器2点、埴輪3点1点	支障なし
22	下高1701	駐車場設置	H9.9.19	1,109m <sup>2</sup>	未踏査地	標高6mの水田	支障なし	
23	高岡608-1	個人住宅建設	H9.9.25	385m <sup>2</sup>	未踏査地	標高6mの傾斜地	土糞層、調査層（出土から表層）	支障なし
24	高岡57-3	個人住宅建設	H9.10.14	823m <sup>2</sup>	黒河川1道跡隣接	標高5.7mの水田	支障なし	
25	高岡市伏生1227番	宅地造成	H9.11.4	2,340m <sup>2</sup>	若柴町跡跡隣接	標高4.5mの水田	支障なし	
26	高岡市伏生9136-1N	宅地造成	H9.11.4	677.44m <sup>2</sup>	西野瀬跡隣接	標高13mの水田原	支障なし	
27	白石3-1N 5 重	資材貯蔵場	H9.11.26	3,439m <sup>2</sup>	未踏査地	標高1.8mの水田	中・近世層帶	支障なし
28	舟石谷4-1	作業所設置	H9.11.26	622m <sup>2</sup>	三野跡隣接	標高1.8mの水田	支障なし	
29	柳原132-2	個人住宅建設	H9.11.26	485m <sup>2</sup>	未踏査地	標高1.5mの水田	支障なし	
30	大江1157-1	東横軒埋蔵	H9.11.26	636m <sup>2</sup>	未踏査地	標高4.0mの水田	支障なし	
31	高岡1867-1N 4 重	資材貯蔵場	H9.12.12	3,457m <sup>2</sup>	下条新跡跡隣接	標高6.7mの水田及び既存地	支障なし	
32	高岡36-4B 1 重	個人住宅建設	H9.12.15	1,647m <sup>2</sup>	金山1道跡隣接	標高20mの水田地	土解消、か・近世層帯 （出土から表層）	支障なし
33	舟石121-1	駐車場設置	H9.12.25	829m <sup>2</sup>	未踏査地	標高5.5mの水田	支障なし	
34	高岡字御田442-2	農家分家住宅建設	H10.1.16	486m <sup>2</sup>	H5-0-4道跡内	標高2.4mの水田	板生土器、須恵器、上等器 試掘調査必要	
35	高岡字谷井455-1	農家分家住宅建設	H10.1.3	257m <sup>2</sup>	未踏査地	標高3.4mの畠地	支障なし	
36	八人合字立霧場地内	（原井計画）	H10.1.16	約2,000m <sup>2</sup>	上野南跡跡隣接	標高64.1mの山林	支障なし	
37	野手7-3	資材貯蔵場	H10.1.16	1,101m <sup>2</sup>	未踏査地	標高22mの水田	支障なし	
38	高岡字立霧場地内	宅地造成	H10.1.16	31,000m <sup>2</sup>	未踏査地	標高5.8mの水田	板生土器、須恵器、上等器 試掘調査必要	
39	高岡字立霧場地内	（原井計画）	H10.1.16	27,000m <sup>2</sup>	未踏査地	標高1.2mの谷間の水田	土解消	
40	山本66-1	個人住宅建設	H10.3.3	500m <sup>2</sup>	未踏査地	標高3.5mの畠地	支障なし	
41	高岡字立霧場地内	（原井計画）	H10.3.3	2,353m <sup>2</sup>	未踏査地	標高19.2mの山林	支障なし	
42	芦原字立霧場地内	個人住宅建設	H10.3.17	892m <sup>2</sup>	未踏査地	標高3.0mの水田	支障なし	
43	芦原字神田448	個人住宅建設	H10.3.17	456m <sup>2</sup>	未踏査地	標高3.0mの水田	支障なし	
44	舟石字平山1562-1	個人住宅建設	H10.3.17	237m <sup>2</sup>	未踏査地	標高20mの既存宅地	転用済み	

第1表 現地確認・分布調査一覧

### 3. 試掘調査

平成9年度に町教育委員会が実施した試掘調査は、国道改良工事・農道新設改良事業2件、民間事業13件の計15件であった。調査結果は、本調査が必要となったもの1件、申請どおりの開発であれば支障のないものが3件、支障のないものが11件であった。

No.	調査名	所在地	選択	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	地質	出土遺物	問題への対応
1	水上・本郷発 (381026)	三ヶ153-18、27番	宅地造成	H19.4.21~5.2 (延べ8日間)	21,620m <sup>2</sup>	900m <sup>2</sup>	散布地	溝、柱穴	土師器、須恵器、埴輪頭部、近世陶磁器、石器	支障なし
2	平山 (381199)	青井谷字平1496-7% 1番	一般道路472号 橋交通安全部設 交未完成工事	H19.5.7 (延べ1日間)	426,390m <sup>2</sup>	18m <sup>2</sup>	馬路			支障なし
3	黒川瓦屋 (381044)	黒川字瓦屋1-2番 8番	資材貯場建設	H19.5.17 (延べ1日間)	1,780m <sup>2</sup>	58m <sup>2</sup>	馬路	川層1枚	織文土器、土師器、須恵器、中世陶磁器	支障なし
4	黒川瓦屋 (381044)	中瀬田字瓦屋丸61	資材貯場建設	H19.5.17 (延べ1日間)	264m <sup>2</sup>	15.8m <sup>2</sup>	馬路	溝3条 土坑1基 柱穴ビット	土師器、須恵器、鉢	支障なし
5	小杉伊勢崎 (385027)	三ヶ2276-1	住宅建築	H19.7.8 (延べ1日間)	300m <sup>2</sup>	32m <sup>2</sup>	散布地		須恵土器、須恵器	支障なし
6	二の井 (381066)	下条675-3	地区公園建設	H19.7.19 (延べ1日間)	445m <sup>2</sup>	36m <sup>2</sup>	散布地		須恵土器	支障なし
7	日の出 (381088)	下角689-2	住宅建築	H19.9.28 (延べ1日間)	490m <sup>2</sup>	46.5m <sup>2</sup>	散布地		須恵土器、須恵器	支障なし
8	HIS-0-4 (381004)	大江36-1%、2番	駐車場及び資材 貯蔵建設	H19.10.25 (延べ1日間)	1,159,380m <sup>2</sup>	98,45m <sup>2</sup>	散布地	溝	土師器、鉢、須恵器、近世陶磁器	支障なし
9	HIS-0-4 (381004)	大江562-1	資材貯場建設	H19.10.25 (延べ1日間)	1,945m <sup>2</sup>	163m <sup>2</sup>	散布地	溝	土師器、漆器、須恵器、縄文土器 近世陶磁器	支障なし
10	白石 (381000)	白石898	駐車場建設	H19.12.15 (延べ1日間)	813m <sup>2</sup>	111m <sup>2</sup>	散布地	馬路	須恵土器、近世陶器 近代陶磁器	支障なし
11	黒河竹山 (381065)	黒河字竹山3562番 29番	駐車場建設	H19.12.17-18 (延べ2日間)	3,135m <sup>2</sup>	292m <sup>2</sup>	散布地	溝、土坑 柱穴ビット	須恵器	支障なし
12	摩越大沢II 黒河瓦屋 (381044)	坂越字大沢700番 36番	宅地造成	H19.11.7~12.22 (延べ32日間)	115,301.29m <sup>2</sup>	5,974m <sup>2</sup>	散布地	馬路	織文土器、須恵器	支障なし
13	二の井E (381087)	下条715	住宅建築	H19.3.13 (延べ1日間)	361m <sup>2</sup>	27m <sup>2</sup>	散布地	溝2条 柱穴3基	須恵土器、須恵器、埴輪頭部 縄文土器	本調査必要
14	一ツ山古墳群 (381039)	黒河5988	住宅建築	H19.3.16~3.18 (延べ3日間)	985m <sup>2</sup>	32m <sup>2</sup>	墓・古墳			支障なし
15	HIS-0-4 (381004)	戸破字神明4610-1番	農耕取扱工事	H19.3.24~3.25 (延べ3日間)	1,900m <sup>2</sup>	145m <sup>2</sup>	散布地		須恵土器、土師器、鉢、須 縄文土器、須恵器、近世陶磁器	支障なし
計	12箇所			延べ58日間	対象面積 143,909.55m <sup>2</sup>	発掘面積 7,936.55m <sup>2</sup>				

第2表 試掘調査実績一覧

\*遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財包蔵地図の遺跡番号を示す。

### 水上・本開発遺跡（No.1）

遺跡は小杉町の西部に位置し、大島町東部に広がる。この辺り一帯は古放生津潟が深く入り込んでいたとされ、湿地が存在したところである。

対象地は現在もは場整備が行なわれていないため、車輛の搬入路がなく農耕車は水田から水田への移動を余儀なくされている。これらの小さな水田の間を縫うように素掘りの水路が走っている。

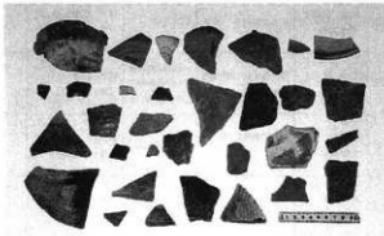
開発計画図は、小杉町・大島町の両町にまたがる大規模な宅地造成で、町境が入り組んでいたため両町で調査後、調整を図り当遺跡に対する以下の共通の見解を導いた。

検出された遺構は、柱穴の可能性のあるもの1基以外はすべて溝で、それらの多くは近世初頭の自然流路や、農業用排水路の可能性が高い。

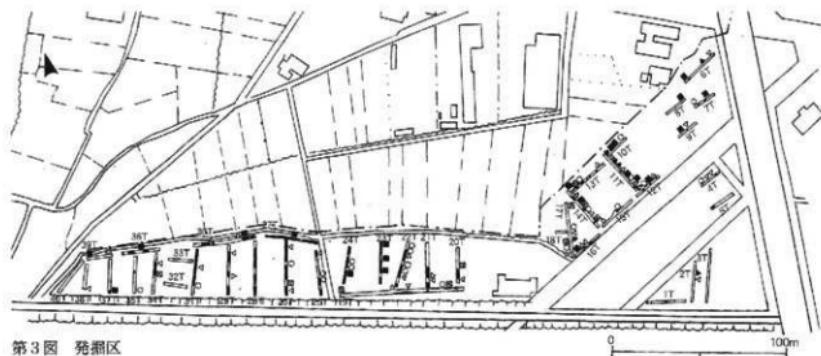
出土遺物は、古墳時代の土師器、古代の須恵器、中世の土師器、珠洲、近世の越中瀬戸・伊万里などである。（稲垣）



第2図 調査位置 (1:10,000)



出土遺物



第3図 発掘区

### 千田遺跡（No.2）

遺跡は下条川左岸の標高約12mに位置する。

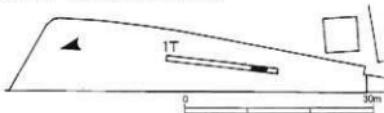
対象地は住宅地であったが、国道472号線交差点改良工事に先立って移転した跡地である。国道は下条川の開析によって形成された南北に細長い谷の中央を通っている。試掘トレンチはほぼ南北に国道に沿うように設けた。

遺構は東西方向に川跡が確認できた。おそらく下条川の旧河道に、土砂が堆積し埋没したものと考えられる。

出土遺物はなかった。（稲垣）



第4図 調査位置 (1:10,000)



第5図 発掘区

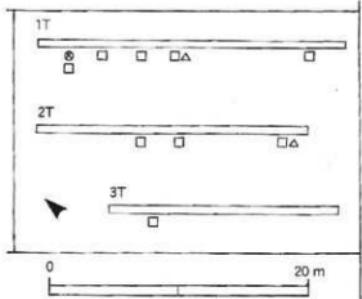
日の宮遺跡 (No. 7)

遺跡は射水丘陵の谷間に広がる標高約8.5mの平野部に立地し、丘陵の縁辺部に所在している。

調査地は遺跡の北東端に位置する水田である。遺構の検出は表土下約55cmの青灰色土上面で行ない、その上層の暗黒褐色土から弥生土器や須恵器が出土している。(原田)



第6図 調査位置 (1 : 10,000)



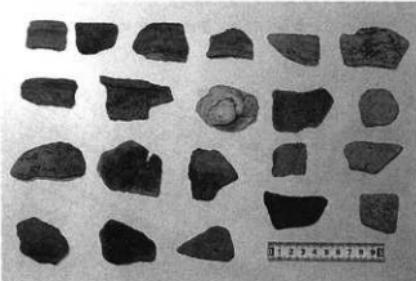
### 第7図 発掘区

## 二の井 I 遺跡 (No. 6)

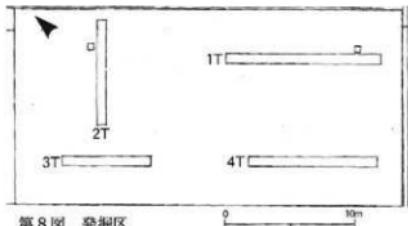
遺跡は日の宮遺跡西端に隣接し、標高約8mの下条川右岸の平野に立地する。

調査は表土から35~60cmほど掘り下げ、灰褐色粘質土(地山)で遺構の検出を行なったが、住居跡などは確認できなかつた。

遺物は地山直上から弥生土器が數点出土した。(原田)



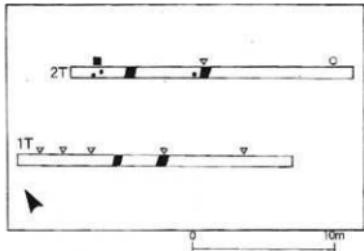
出土遺物



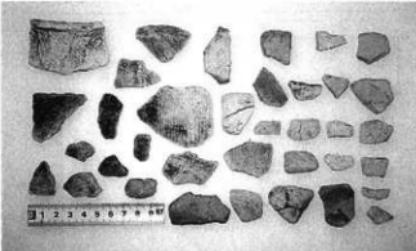
第8圖 積攜區

### 二の井Ⅲ遺跡（No.13）

対象地に2本のトレンチを設け、2条の溝と3基の柱穴を確認した。また、遺構検出面を2面確認したことから二時期ある可能性も考えられる。遺物は弥生時代後期の土器を主体とし、中世の遺物もわずかに含まれる。以上のことから、計画地は弥生時代後期を中心とする遺跡内に位置しており、本調査が必要である。(総括)



### 第9図 登録区



出土遺物

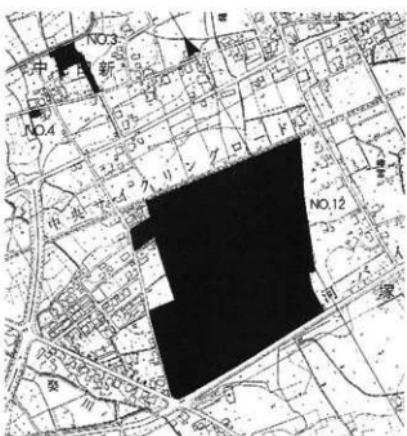
### 塚越大沢Ⅱ・黒河尺目遺跡（No.12）

調査対象地は中央サイクリングロードと、主要地方道戸出・小矢部線古沢黒河バイパスの間に位置する。

遺構は土取りの痕跡が認められる2箇所と、柱穴の可能性があるものが1箇所検出された。

遺物はトレンチ内から縄文土器1点、須恵器数点を検出した。対象地の南東部分で縄文土器・打製石斧・鉄滓を多く表採したことから、付近に遺構がある可能性が高い。

(福垣)



第10図 調査位置 (1:10,000)



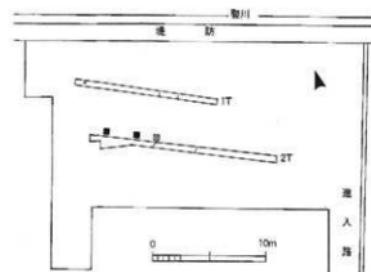
第11図 発掘区



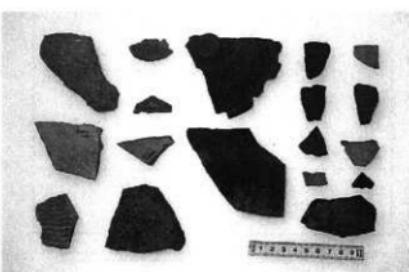
出土遺物

**黒河尺目遺跡（No.3）** 遺跡は標高8m前後の射水丘陵裾部に立地し、北側には水田地帯が広がる。昭和61・62年と平成3年に行なわれた発掘調査では、奈良時代や中世の遺物とともに掘立柱建物12棟が発見されている。

調査対象地は、先の調査地から北東に300mほど向かった豊川右岸に位置する畠地で、一部が近年まで部落のため池であった。調査時には一部がすでに盛り土や表土掘削が行なわれ、須恵器など遺物が散布していた。試掘トレンチでは旧ため池からの水路が1条確認された。（原田）

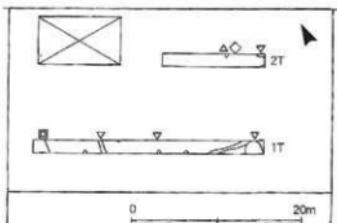


第12図 発掘区



出土遺物

**黒河尺目遺跡（No.4）** 調査地は標高9.7mの緩丘陵部に位置する。調査は地表面から約50cmほど下にある淡黄褐色土層上面で遺構の確認を行なった。検出した土坑や柱穴状ピットからは上師器・鉄滓が出土している。（原田）



第13図 発掘区

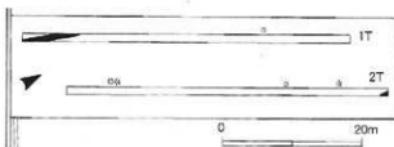


出土遺物

**白石遺跡（No.10）** 遺跡は下条川と新堀川に挟まれた、標高約2.0mの射水平野に立地する。調査地から南西250mの箇所で、平成3～4年に約4,400m<sup>2</sup>の発掘調査が行なわれ、古墳時代初め頃の溝と中世館跡の遺構が発見されている。調査は表土下約5～25cmの暗黄褐色土で遺構の確認を行ない、幅約1mの旧用排水路を確認した。（原田）



第14図 調査位置 (1:10,000)

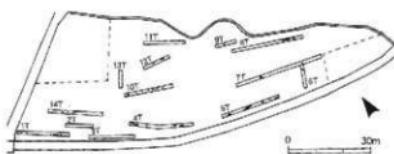


第15図 発掘区

**黒河竹山遺跡（No.11）** 遺跡は射水丘陵の北東端に位置し、幅約200mほどの浅い谷間に立地している。調査地の周辺では今までに数回の試掘調査が行なわれ、奈良～平安時代にかけての土器が出土している。また、製鉄に関連する遺物も確認されたため、丘陵中で多く発見された製鉄遺跡との関連が予想される地域である。今回の調査では、時期は明確ではないが土坑・溝・柱穴状ピットが多數確認された。遺物は黄灰色土の遺構検出面で須恵器1点が出土した。（原田）



第16図 調査位置 (1:10,000)



第17図 発掘区

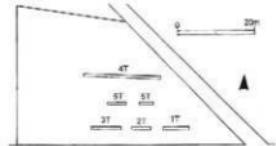
#### 一ツ山古墳群（No.14）

対象地は一ツ山古墳群の2号墳から南へ約120mの地点に位置する。

今回の調査では、地形及びトレンチの観察からは古墳の存在を確認できなかった。



(縮図) 第18図 調査位置 (1:10,000)

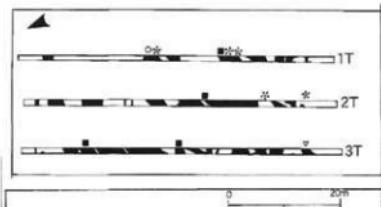


第19図 発掘区

#### HS-04遺跡(№9)

対象地は下条川右岸の標高2.5mの平野に位置する。遺構は東西方向に流れる溝を数条確認した。溝の幅は0.4~6.0m、深さは0.1~0.5mで、複数の溝がところどころで1条になっているようである。溝の覆土はすべて単層で同一の土層である。調査区の南側を平成8年に試掘調査した時も同じような溝が確認されたことから、調査区の西を流れる下条川へ流れ込む小川、あるいは下条川そのものが高低差がないために流れよどみ、このような流路ができたのではないかと考えられる。

出土遺物は、土師器・珠洲・越中瀬戸・漆器(中世)で、耕作土及び溝の覆土から出土した。(縮図)



第21図 発掘区

#### HS-04遺跡(№8)

調査地は県道松ノ木・鷲塚線の南、標高2.2mの平野に位置する。

耕作土直下の青灰色の地山で溝を数条確認したが、近世の農業用排水路と考えられる。

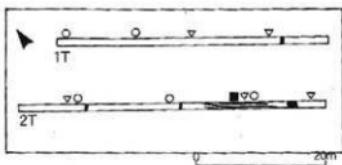
出土遺物は、土師器・珠洲(中世)、近世陶磁器である。出土層位は地山直上から珠洲が1点出土した以外は、いずれも耕作土中から出土している。(縮図)



第20図 調査位置 (1:10,000)



出土遺物



第22図 発掘区

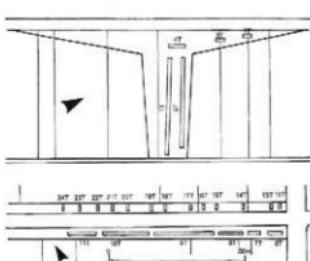
#### HS-04遺跡(№15)

調査地は下条川右岸の標高2m前後の平野に立地する。近隣の調査で古墳時代初めの集落や中世の集落が確認され、遺跡の実態が明らかになりつつある地域である。

調査は耕作土下30~70cmの淡黄灰色土で、遺構の確認を行ない、耕作土の下層から弥生時代・古代・中世・近世の遺物が数点出土した。(原田)



第23図 調査位置 (1:10,000)



第24図 発掘区

### 小杉伊勢領遺跡（No.5）

遺跡は下条川左岸の標高約5mの微高地に位置する。周辺では平成3～4年にかけて大規模な宅地造成に先立つ発掘調査が行なわれ、縄文時代中期、弥生時代末から古墳時代初め、古代・中世の遺構、遺物が確認されている。

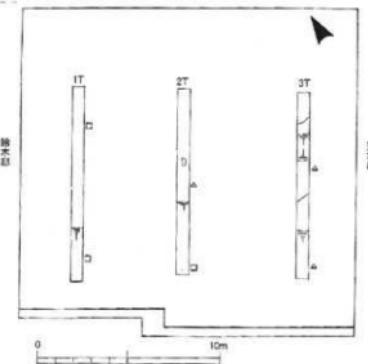
調査箇所は、平成3年に弥生時代末の大溝が発見された発掘区の西側にある。今回の調査では大溝に続く遺構の検出を想定し、表上下30～75cmの淡黄褐色土及び下層の灰茶褐色・赤茶褐色土まで確認したが、検出できなかった。（原田）



出土遺物



第25図 調査位置 (1:10,000)



第26図 発掘区

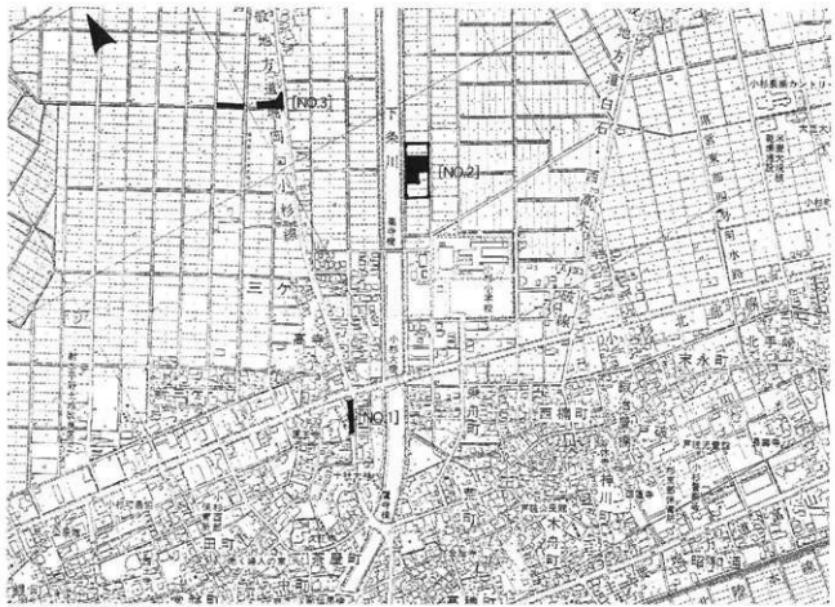
## 4. 本 調 査

平成9年度に町教育委員会が実施した本調査は、県道拡幅事業1件、下条川親水公園建設事業1件、ふるさと農道整備事業が1件である。これらの事業はすべて公共事業である。

No.	遺跡名	所 在 地	原 因	調査期間	発掘面積	検出遺構	出 土 遺 物
1	高 寺 (381020)	三ヶ字茶ノ木 1597-8外	道路拡幅工事	H9.4.18～ 7.30 (延べ73日間)	651nf	周溝(弥生～古 墳)・溝10条(平 安～近世)・近世 墓多数・井戸1 基(近世)	弥生土器・土師器・須恵器 土師皿・近世陶器・織器・泥人 形・骨壺・木製品(早桶・漆椀・ 卒塔婆・数珠玉・櫛)・石製品 (石仏・蓋石・空輪部)
2	H S -04 (381004)	戸破字神田 4428-1外 10筆	下条川親水公園 建設	H9.5.29～ 11.4 (延べ83日間)	1,920nf	溝・土坑(古墳) 柱穴・井戸・溝 土坑(中世)	土師器・管玉(古墳時代)・須 恵器(古代)・土師器・珠洲(中 世)・越中瀬戸(近世)
3	愛 宮 (381002)	三ヶ字1-1外	ふるさと農道 建設	H9.8.18～ 12.5 (延べ63日間)	1,000nf	井戸22基(中世～ 近世)・溝10条 (古代～近世) 土坑28	弥生土器・土師器・土師皿 珠洲・青磁・石製品(火輪部 砥石)・木製品(曲物・釣瓶 箸・漆椀)・銅製品(鉢)
計	3 遺跡			延べ219日間	発掘面積 3,571nf		

第3表 本調査一覧

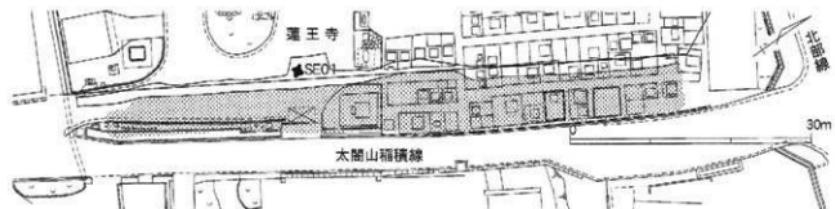
※遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。



第27図 調査位置 (1 : 10,000)

#### 高寺遺跡 [No. 1]

平成8年度の試掘結果を受けて本調査を実施した。遺構は弥生時代や古代の溝・土坑、中世の柵列状遺構、近世の埋葬施設が確認された。(原田)



第28図 発掘区



#### HS-04遺跡〔No.2〕

昨年当遺跡の調査は、中央部分を除く北と南側部分に対して行なった。遺構・遺物の中心年代は、古墳時代初頭と中世で、古墳時代初頭の周溝（溝）や井戸・土坑が確認された他、中世の溝・井戸・柱穴が確認された。

調査区を北流する大溝が1条あり、弥生時代末から古墳時代初めの土器の他、勾玉・管玉、古代の須恵器・土師器碗が出土した。弥生時代末から古墳時代初めの土器は、かなり摩滅しているうえ、下層部に大量に含まっていた。その他、玉の製作過程で出た緑色発灰岩のチップ・フレイクが多量に含まれていたため、最下層の土を洗浄することにより遺物を採集した。なお、今年度の調査で確認した柱穴のうち8穴で柱根が遺存していた。また、自然科學分析によって調査区は湿り気の多い上地で、トネリコやイヌエンジュ・ハンノキなどの樹木が繁茂し、ハスやヒシなどの水性植物も多く生育したことやヒヨウタン・ウリ・ソバなどが栽培されていたことが明らかになっている。ソバの栽培については、北陸地方で最も古い事例の部類に入ることが明らかとなった。（船堀）



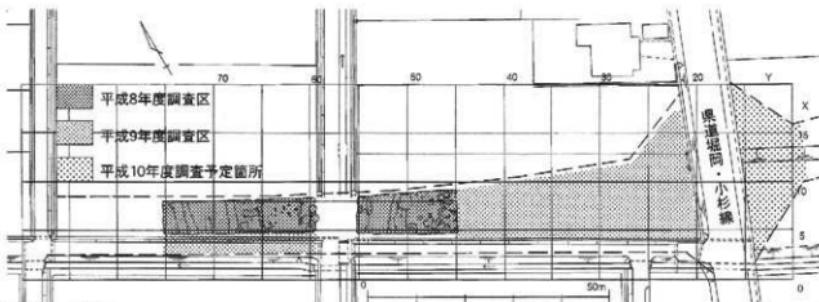
柱穴半断面の様子



出土遺物

愛宕遺跡〔No.3〕調査は平成8年度から県営ふるさと農道整備事業に先立ち、約1,800m<sup>2</sup>の広さを対象に行なっている。

遺構は弥生時代末から古墳時代初めの土坑と中世の集落跡が確認されている。遺物は井戸の中から出土した火箸や釣瓶などをはじめ御鉢・鉄滓・フイゴの羽口なども見られる。調査は平成10年度で終了する予定である。（原田）



第29図 発掘区



## 5. 普及・活用

### (1) 整理室の見学

今年度の作業は天池C遺跡の実測・拓本の他、今年度報告書刊行の高寺遺跡の注記・接合・実測・トレイス、愛宕遺跡及びHS-04遺跡（親水公園）の注記作業及び接合作業など、報告書に向けた整理作業を行なってきた。

整理室は平成9年4月1日より、太閤山小学校から旧シルバー人材センターへ移転した。移転後は以前に比べ展示・保管・整理作業に十分なスペースを確保することができた。また、4月当初は新聞や町報で取り上げられたこともあり、個人見学者が増加した。

今年度整理室には次の見学があった。5月14日 議会視察(33人)、6月9日 審議委員(5人)、6月16日 射水郡社会科教育研修(30人)、6月25日 教育委員(9人)、6月26日 中太閤山公民館(28人)、大門町教育委員会(26人)、11月4日 町民バス(30人)、3月23日 町新任職員(5名)の他、調査員などの見学者約10名、個人の方の見学者が約50名あった。

### (2) 報告書等の刊行

平成9年度事業として、小杉町教育委員会が1998年3月に刊行のものは以下のとおりである。

- ①「高寺遺跡発掘調査概要」(A4版 P38)
- ②「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度」(A4版 P20)



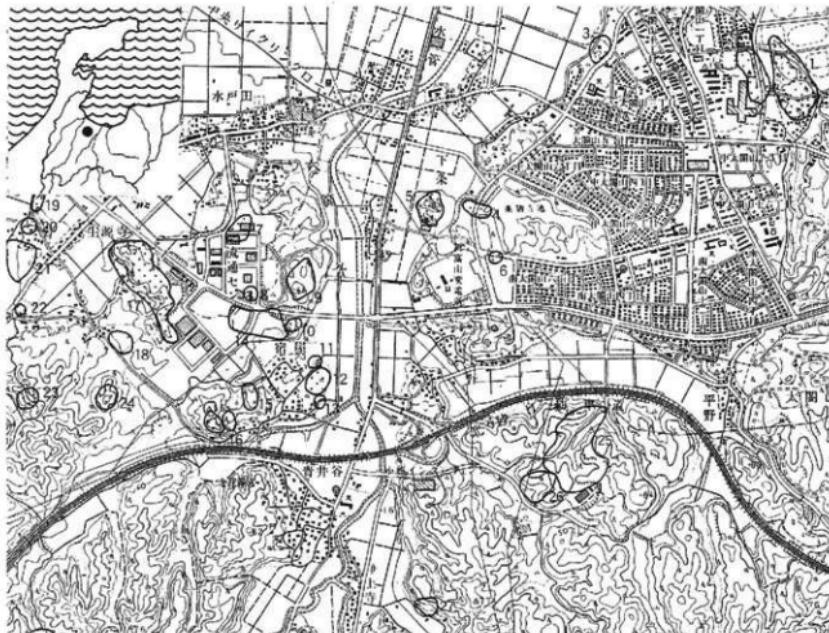
## 6. 丸山古墳発掘調査概要

### 1 立地と周辺の遺跡

小杉町は県の中央部に位置し東西方向の幅が狭く南北に細長い町域で、町の南側部分には標高100m未満のなだらかな射水丘陵が広がる。丸山古墳はこの射水丘陵上に位置する。射水丘陵は下条川や下条川へ流れ込む小河川の開析により網目のように谷があり組んでいる。

射水丘陵の中でもこの一帯は、古墳をはじめ多くの遺跡が確認されている。これらの多くは、丸山古墳の北側に位置する小杉流通業務団地や、この団地を東西に通る七美・太閤山・高岡線の建設に先立ち調査が行なわれた。

丸山古墳の近隣では、宿屋古墳群、山王宮古墳群、大塚古墳、五歩一古墳群（前方後方墳）、小杉流通業務団地内No15B遺跡、変電所西古墳（前方後円墳）など多くの古墳が確認されている。7世紀以降は国指定史跡の小杉丸山遺跡をはじめとする小杉流通業務団地内遺跡群No.6・7・18A・15A、天池C遺跡、水蔵場D・G・H遺跡、赤坂C遺跡や上野南遺跡、生源寺窯跡など多くの炭焼窯や製鉄炉、須恵器窯の生産遺跡が出現する。このような射水丘陵の特長は、恵まれた地質及び地形的な自然条件だけでなく政治的背景によるものと考えられる。



第1図 地形と周辺の遺跡

1. 一つ山古墳
2. 二ツ山古墳
3. 圆山遺跡
4. 荘勝寺池西古墳群
5. 山王古墳群
6. 荘勝寺池古墳
7. 小杉流団No.3遺跡
8. 小杉流団No.17遺跡
9. 五歩一古墳群
10. 小杉流団No.15B遺跡
11. 小杉流団周辺J遺跡
12. 宿屋古墳群
13. 宿屋窯跡
14. 小杉流団No.18A遺跡
15. 小杉流団No.28遺跡
16. 青井谷丸山遺跡
17. 小杉丸山遺跡
18. 生源寺窯跡
19. 生源寺新十三冢古墳
20. 大塚古墳
21. 生源寺新B遺跡
22. 南郷中学南古墳
23. 生源寺南古墳
24. 青井谷西古墳
25. 天池C遺跡
26. 水蔵場H遺跡
27. 東谷遺跡

## 2 調査の経緯と事前調査

周知の遺跡である丸山古墳は、1991年6月17日～9月10日（延べ2日間）に行なわれた隣接する青井谷丸山II遺跡の土砂採掘に先立つ分布調査によって、方墳2基、礫集積遺構2基から成ることが確認された。

その後、丸山古墳埋蔵地上に民間会社の福利厚生施設建設が予定され、1993年11月26日～12月10日（延べ10日間）に測量調査を行ない、翌1994年8月31日～11月14日（延べ44日間）に礫集積遺構の本調査を行なう一方で、地形に合わせた4m間隔の基準杭を設定し古墳の平板による測量を行なった。古墳主体部の調査は1995年4月17日～7月5日（延べ49日間）に行なった。

## 3 調査の概要

### (1)立地と本調査の経過

丸山古墳は、下条川左岸の標高54～56mの尾根伝いに位置し、丘陵の頂部に立地する。戦中は古墳及び礫集積遺構の数メートル下方まで畑として利用されていたが、戦後は植林されその後は放置された。

平成7年度は、調査区全体に1×1mの方眼をかけ25cmごとに等高線を入れ図化したところ、西側の盛り上がりは古墳ではない可能性がでてきた。明らかに古墳である東側の墳丘を1号墳、西側の墳丘を2号墳とした。

調査は1号墳から主体部掘り方を確認し調査を行なった。2号墳については再三精査したが掘り方を確認することができなかつた。そこで東西方向に幅約20cmのサブトレチ1本とそれに直交するサブトレチ2本を設定し、その断面を観察したが結論が得られず、更にサブトレチの数を増やし観察しやすいように幅を約30cmに設定した。その結果、西側の墳丘は自然堆積によることが明らかとなった。

### (2)基本層序

基本層序は、①層：黒褐色土（7.5YR 3/1）腐葉土や草木の根からなる表土（20cm）。②層：明褐色土（7.5YR 5/6）Ø1～2cmの砂礫を含む地山（60cm）。③層：明黄褐色土（10YR 6/8）Ø3～10cmの砂礫を主体とする（100cm）。④層：明黄褐色土（2.5YR 6/6）（150cm）。⑤層：灰色土（10YR 5/1）の軟質泥岩層が10数メートルにわたって続いていることを、古墳が位置する尾根の西側部分の露頭で確認した。1号墳の西では②層と③層の間に明黄褐色土（2.5YR 6/6）Ø1～10cmの腐穢の間にシルトが入る層がある。



第2図 地形と発掘区

#### 4 遺構

##### (1) 古墳

古墳は南北軸約13.4m、東西軸約11.2m、墳高約2.0mの円墳で、埋葬施設の検出は1基である。墳丘は土盛りされたものではなく、尾根頂部を水平に削り墳丘頂部を造り出している。

周溝は2条巡らされており、周溝1は西へ伸びる尾根を南北に切る。長さ約11m、幅2.1~3.1m、深さ約0.3mで、墳丘の高まりを強調している。周溝2は長さ約10m、幅3m、深さ約20cmの浅い周溝である。周溝1については溝の両端が高く排水溝としての機能ではなく、西へ伸びる尾根を切ることにより墳裾を明確にするために造られた周溝だと思われる。周溝を造った時に出土した土は、古墳の景観に影響のないところに意識的に廃棄したと考えられる。

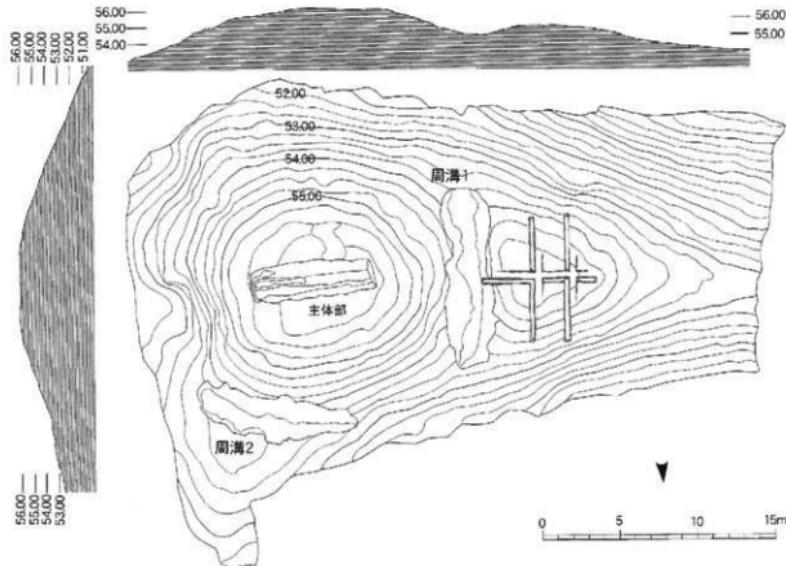
墳丘の南側は特に手を加えず斜面を利用している。墳丘東側の窪みは後世に何らかの削平を受けたものと考えられる。

埋葬施設の構築に当たっては、表土直下の②層から郷掘り方が掘り込まれ、③層（かなり風化の進んだ凝灰岩）まで掘り込まれている。埋葬施設が確認できたのは、墓壙覆土より約0.6m掘り下げたあたりである。

埋葬施設の掘り方は長軸約8m、幅約2.4m、深さ約0.9mである。埋葬施設の主軸方向はN-78°-Eである。郷の大きさは長軸7.5m、短軸0.7mを測る。郷床面の東から約3.3mのところで段差がつき、段差から東側の郷幅が0.6mに満たなくなる。特に郷の長軸が歪むこともなく、郷の床面が弓なりになる。また、東側は若干低くなる。東側より西へ1.5m程のところまでの覆土は西側部分に比べ締まりがなかった。

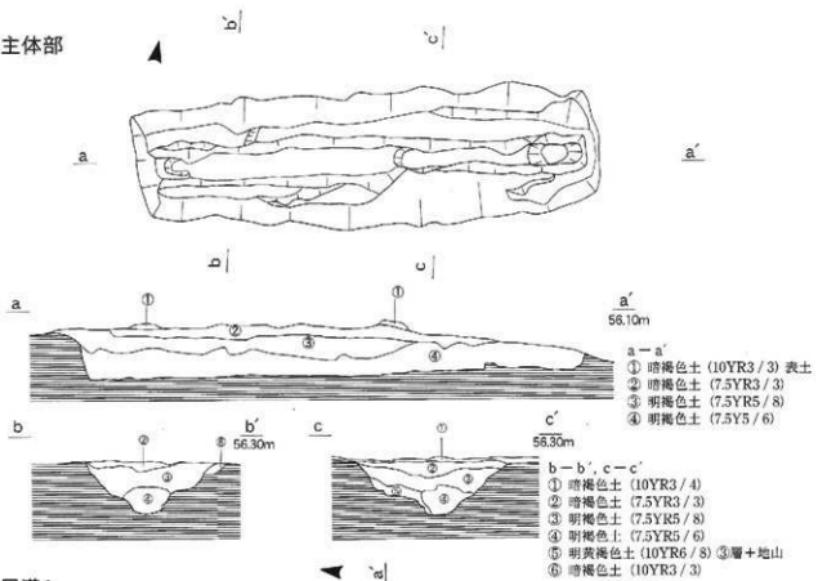
埋葬施設の形態は、主体部の床面の立ち上がりが丸みを持つことから、おそらく削竹形木棺ではないかと考えられる。

埋葬施設内の覆土については、すべて洗浄したが土器片のほかには特に副葬品は認められなかった。



第3図 検出遺構

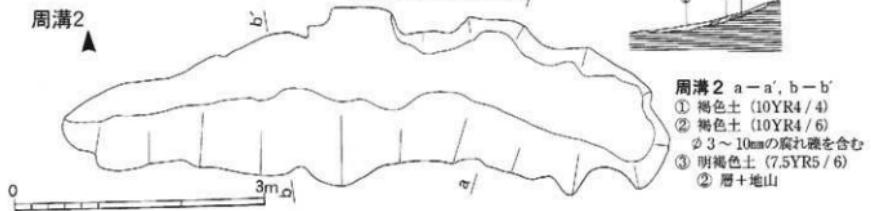
主体部



周溝1



周溝2



第4図 埋葬施設

## (2) 磨集積遺構

### a 1号磨集積遺構

長軸約6.0m、短軸3.5mの橢円形を呈する。高さは約0.25mで中心部分が高く、縁辺部に行くに従い低くなる。

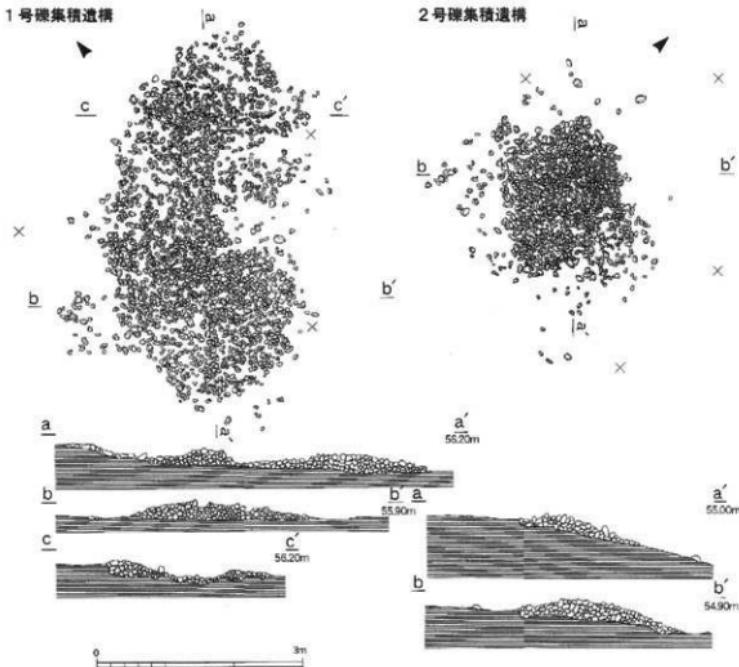
周辺には礫が単独で散乱している。集積されている礫は、Øが2cm程度のものから大きなものではØ15cm程度である。量的には拳大のものが最も多い。これらの礫は、古墳の西の露頭で確認されている②層や③層に含まれる腐礫とは異なる円礫である。礫中から古鏡と石策が出土した。

また、礫を取り除いた後の地面には特に遺構なども認められなかった。ただし、セクションa-a' とセクションc-c' の交差する部分を中心とする直径約0.75m、中心の深さ約0.1mの端正なすり鉢状の窪みが認められた。

### b 2号磨集積遺構

一辺が約2mの平行四辺形の形を呈する。高さは約25cmで、縁辺部へ行くほど礫の量が減り薄くなる。周辺には礫が単独で散乱している。集積に用いられている礫は1号磨集積遺構と同一産地のもので、大きさもØ2cm程度からØ15cm程度と酷似している。主体となる礫の大きさは拳大かそれよりやや小さなものである。集積の礫表面には窪みなどは認められなかった。

また、礫を取り除いた後の地面には、窪みあるいは土坑などの遺構は確認できなかった。地面に手を加えず礫を集積したようである。遺物の出土はなかった。



第5図 磨集積遺構

## 5 出土遺物

1～4の遺物は主体部覆土より出土している。いずれも小破片のため、器種の特定及び口径について明確にできなかった。

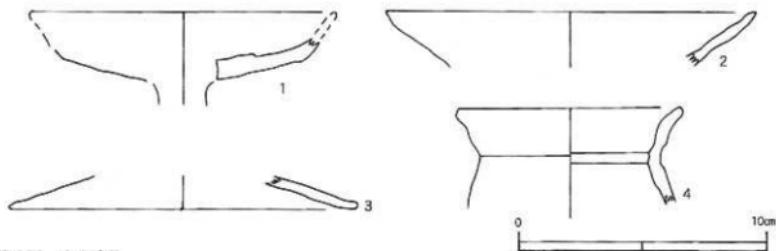
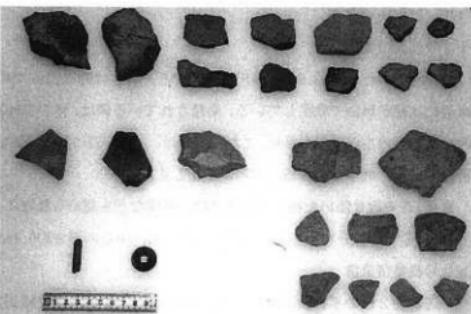
その他の遺物は古墳表面からの採集である。

1は高杯の杯底部。内面の器面は半分以上が剥落し、口縁部は欠損している。

2は高杯の杯部で口縁部が長く外反し、口唇部がやや肥大する。

3は高杯あるいは盤台の脚裾部分。

4は壺口縁部。



第6図 出土遺物

## 6まとめ

主体部覆土より出土した遺物と墳丘の周辺から採集された遺物は同時期のものである。これらの遺物が古墳に伴うかどうかについては明らかではないが、遺物の年代と古墳の形態から、おそらく古墳は4世紀後半から5世紀前半に構築されたものであろう。

既発表遺構については、用いられていた礫が古墳の西側の墓頭で確認された礫とは異なることから、わざわざ尾根筋まで運び積み上げた可能性もあるが、以前は畑が近くまであったことや尾根の東側と西側では上層が異なる可能性もあり、近代に入ってからの遺構である可能性も捨て切れないと考えられる。

(稲垣)



調査終了の様子

図版 1



1. 墓丘  
(北から)



2. 埋葬施設  
(東から)



3. 埋葬施設  
(西から)

図版2



1. 埋葬施設  
(西から)



2. 1号砾集積遺構  
(北から)



3. 2号砾集積遺構  
(南から)

## **小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度**

---

平成10年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-0393 TEL (0766) 56-1511

印 刷 島 木 印 刷

---

